

海外での高級化戦略による自社製品ブランド化

(青紫蘇農場 株式会社)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:熊本県合志市野々島5472番地7
- 代表者:代表取締役社長 吉川 幸人
- 資本金:2,600万円
- 売上高:1億8,000万円
- 従業員数:50名(パート含む)
- URL:<http://shiso.net/>

①事業概要

<紫蘇の加工・販売>

青紫蘇農場株式会社は、大葉の生産や大葉を原料とした商品の開発販売を行っている。

生産工程管理システム(GAP準拠)や生産情報公表JAS規格の認定による「安全・安定供給」の追求や、主力商品である「紫蘇の葉」について栄養成分分析等を自社で行い、説得性のある商品開発につなげている。

紫蘇からお茶、ジュース、ドレッシング、飴、素麺など多彩な商品を開発・販売しており、最近では、業務用として紫蘇粉末のほか、紫蘇エキスからオイル・色素を抽出しており、食品添加物や医薬品への応用が期待されている。

②海外展開概要

<香港、東南アジア、北米等への販路開拓>

JETRO熊本のコーディネートにより現地日系人の協力を得ながら海外での市場調査・独自の商談会を開催して、販路開拓を行っている。

平成16年頃から、上海、米国(LA、NY)、香港、シンガポール、韓国等で市場調査を開始し、平成17年には米国(LA、NY)、香港、シンガポール、韓国等で熊本輸出部会の商談会を開催。平成18年に香港(最高級シティスーパー)へ大葉の輸出を開始し、その後、シンガポール、米国(NY)、香港、イギリス、ドバイ、マレーシア、フランス等への輸出実績をもっている。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

同社は、展示会出展等を現地で独自に開催して、有力バイヤーとのネットワークを構築し、販路を拡大。

同社の成功の秘訣は、明確な目的を持って、輸出先において、ブランド価値を高めるため、現地のトップクラスのスーパーやレストランにターゲットを絞り、高級化戦略を進めていること。

④今後の事業展開について

これまでの取り組みにより海外バイヤー等とのネットワークがある程度出来たため、今後は新たな販路を確保するとともに、販売種目を増やしていく。大葉に加えて加工食品の輸出に注力していく。



吉川社長

青紫蘇農場社屋



商品



(平成24年10月現在)

データ出所:九州経済産業局